

「災害対策について「伴に」考える研究会」で熊本地震での活動について講演しました (2016/6/3)

テーマ：熊本地震、DMAT、災害医療コーディネーター

場所：順天堂大学医学部（東京都文京区本郷）

2016年6月3日(金)、東京都文京区の順天堂大学医学部大学院において「災害対策について「伴に」考える研究会」の第10回定例会があり、当研究所の佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が熊本地震におけるDMAT（災害派遣医療チーム）活動、その後の災害医療体制について講演しました。本会は、地域に内在する多種多様なリスクを、国・自治体・大学・研究機関等の専門家と地域の住民・団体・企業が定期的な意見交換の場で洗い出し分析した上で、結果を現行制度の脆弱性を補う新規制度・システム作りに反映させることを目的として設立された研究会です。当日は佐々木助教の発表以外にも、熊本地震で活動したボランティア団体、民間企業の代表者が講演し、活動内容や現場での困難について情報提供しました。

佐々木助教は、4月に南阿蘇村でDMATとして活動した内容、その後の熊本県の医療調整体制について講演しました。DMATについては活動内容や体制整備もほぼ固まってきましたが、急性期以降の被災地医療調整体制をどうすべきかについては、東日本大震災から5年を経過した現在でも体制が十分には固まっておらず、5月の活動に際して経験した様々な困難について発表しました。直下型地震の危険が迫っている首都圏に在住する多くの方が、熱心に聞き入っていました。その後、今後の研究活動に関しての班会議も行われ、佐々木助教は東日本大震災の経験者、医療者としての立場から研究方針への助言を行いました。

今後もこの研究会は定期的開催され、多職種が一同に集い「伴に」将来の防災・減災につながる研究活動、意見発出を継続していく予定です。



文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）